

SHIRAKOBATO

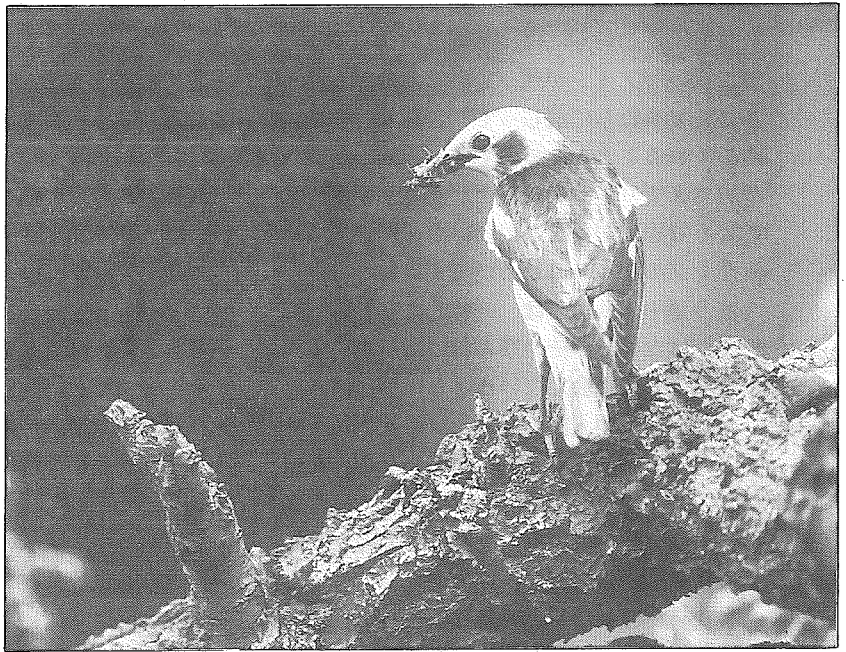
しらこぼと



1991.5

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 84

日本野鳥の会埼玉県支部

近年めっきり少なくなった平地の雑木林。私の住むここ川越でも、かつては薪炭や堆肥を作るために欠かせない存在でしたが、時代の波には勝てず、毎年すこしずつですが、確実に減少しています。そんななかで、川越市南西部に位置する福原地区には、今も昔ながらの武蔵野の面影を残す雑木林や畑が残っています。ここでは、福原地区の中の下松原というあたりを紹介しようと思います。

春から夏にかけて

3月中旬、他の木々にさきがけて林縁に萌え出るニワトコ。やがて、クヌギ・コナラ・リョウブなどが次々に芽を出し、新緑の季節の到来。

林の中から見える青空が、すっかり緑に覆われるまえの4月中旬ごろ、センダイムシクイやエゾムシクイが、元気な声を聞かせてくれます。

すこし遅れて、キビタキやオオルリも、繁殖地へ向かう途中によっていきます。

また、この時期には、平地で冬を過ごしたビンズイやアオジが残っていて、南から渡ってきた夏鳥たちに混じって、さえずりを聞かせてくれることもあるのです。以前、シロハラのさえずりを聞いたことがあります。このような思いがけない出会いも、バードウォッチングの楽しみのひとつですよ。

渡り途中の鳥たちは、一時的に立ち寄っていただけなので、その顔ぶれは毎日違います。お目当ての鳥に会えないこともしばしば。

しかし、早朝人気のない新緑の雑木林を歩くのは、それだけでも気持ちいいもの。林縁にガマズミが咲いていたり、林の中ではエゴノキの白い花が良い香りを漂わせていたりして、植物観察にも向いています。

春から夏にかけての鳥見は、5月いっぱいが見ごろです。そのあと9月までは、鳥も少なくなり、緑に覆われて見通しも悪くなり、やぶ蚊の大群に襲われるだけ。

でも、汗をかき、蚊に刺されながら、巣立ったばかりのシジュウカラの幼鳥を探したり、

リョウブの白い花や、オオバギボウシの薄紫の花を見るのも、夏の風情があって、いいかも。

秋から冬にかけて

秋の林は色とりどりです。ガマズミは赤い実、サワフタギは青い実をつけ、林床にはリンドウが咲いています。そして、木々は黄や赤にそまり、新緑とはまた違った複雑な色彩美を見せます。

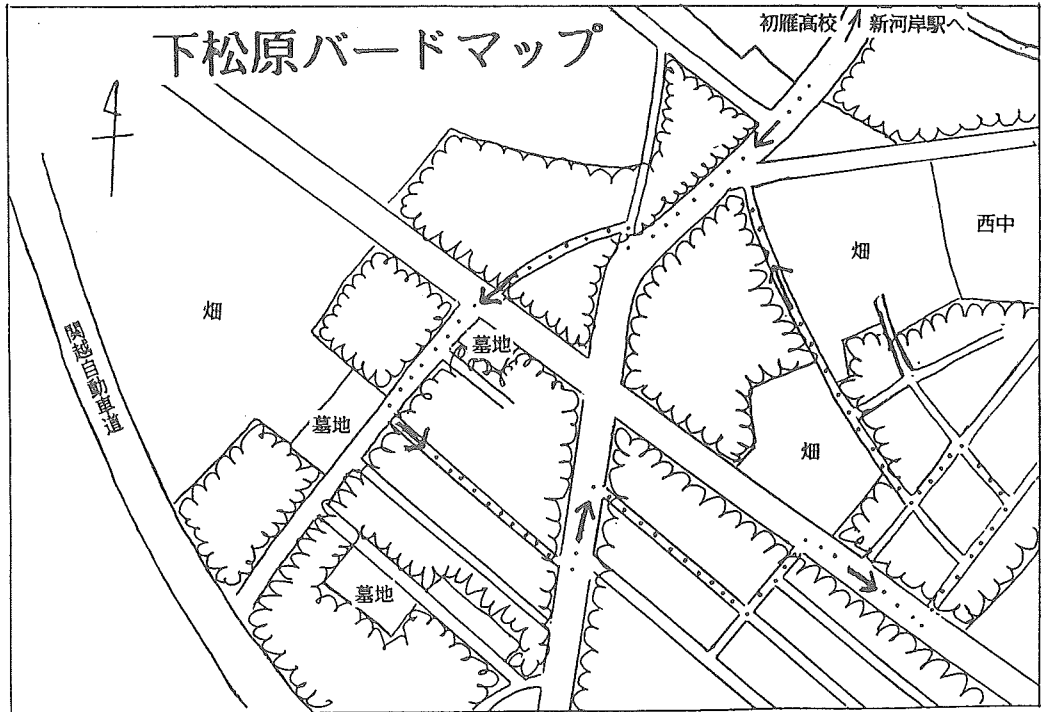
10月中旬ごろ、山からカケスや、ビンズイ・アオジがおりてくるのですが、まだまだ冬鳥の姿は少なめ。ここの林がおもしろくなるのは、木々がすっかり葉を落としたころからです。

一見静かな冬の林も、注意してみると、意外といろいろな音や声が聞こえてきます。

落葉をガサゴソひっくりかえしているのはシロハラ。ヒッヒッヒッ、ルリビタキは、じっとしていればすぐそばまで来てくれます。チチチチッという小さな声が聞こえたら、マツヤスギなどの針葉樹を見てみましょう。キクイタダキがせわしなく餌探しをしています。

葉が落ちて見通しが良くなると、アオゲラの木登りも見られるでしょう。数が少なく、なかなか出会うことはないのですが、ミヤマホオジロも、毎年数羽が越冬します。

冬鳥たちは、3月中旬ごろまではひととおりのメンバーがそろっていますが、次第に種類、数が減って行って、やがて夏鳥たちにバトンタッチとなるわけです。



下松原ってどこ？

東武東上線「新河岸」駅の改札を出て、駅前の道路を左へ、線路ぞいに進みます。およそ 200m 行くと、道路は大きく右に曲がります。あとは道なりにまっすぐ。信号を2つ越え、300m ほどで道は3つに分かれます。真ん中の道を行けば、川越初雁高校の前を通過して、下松原の雑木林へ。徒歩でおよそ25分～30分。

雑木林は、中央で2本の道路が交差していて、4つに分けられています。この4つに分かれた林の中の小径を歩くわけです。

探鳥地図のコースは、4つの林をひとつお回り回るようにしてあるので、参考にしてください。

しかし、コースにはあまりこだわらずに、勝手気ままに歩いたほうが、楽しいかもしれません。国木田独歩の『武蔵野』に、こんなくだりがあります。「武蔵野に散歩する人は道に迷うことを苦にしてはならない。どの路



でも足の向くほうへゆけば必ず其処に見るべく、聞くべく、感ずべき獲物がある。……」。雑木林の楽しみ方を良く知っている人の言葉ですね。みなさんも武蔵野の面影の残る雑木林を訪れた時には、鳥を見るだけでなく、ほかにも「獲物」を探してみてください。

それから、ここの雑木林はすべて私有地です。林の中を歩くぐらいは黙認されていますが、くれぐれも植物を採集したり、傷つけたりしないように、フィールドマナーを守って見せてもらいましょう。

(長谷部謙二)

地鳴きコーナー

北欧寄鳥見鳥 Part 2

林 慎一（大宮市）

ストックホルム市の郊外、市の中心部から車で30分以内の距離に水鳥の繁殖地が数ヶ所あります。いずれも広い芦原を持つ沼や湖です。これらの繁殖地は完全に保護されており、さらに4月1日から7月15日まで、すなわち繁殖期間中は広い範囲にわたって立入禁止となります。この間は鳥見人は禁止区域の外側に建てられた木製のやぐらの上から観察することになります。やぐらといってもけっこう立派なもので中段に10人ぐらい、最上段には4、5人ぐらいは入れそうです。地方に行っても有名な探鳥地の周りにはこのような観察やぐらがあちこちに建てられています。なるべく鳥達をディスターブせずに鳥見を楽しもうという配慮が感じられます。我々も大いに見習うべきでしょう。櫓からの観察は距離があるのでプロミナは必携です。一方水鳥たちを近くで見るのは3月がチャンスです。3月は北欧ではまだ完全に冬ですが、鳥達は中旬ぐらいにはすでにかかなりの種類が南から帰ってきています。この時期はもっと北のタイガやツンドラ地帯で繁殖する鳥達も羽を休めて通過していくので多くの種類を見ることができます。又、この時期は繁殖に入る前の求愛の時期でしきりに求愛行動をとる姿が見られます。ストックホルム郊外のAgestaという所にこじんまりとした繁殖地があります。ここは私が勤めていた研究所までの

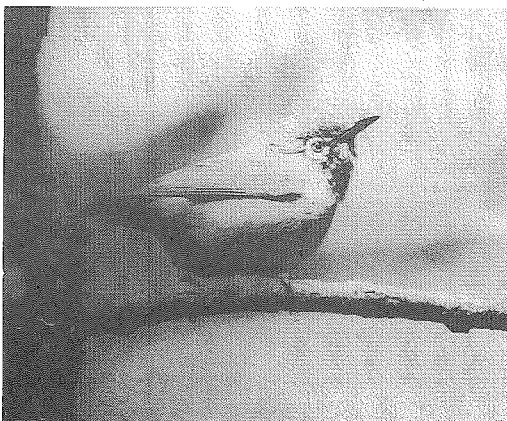
通勤路の途中にあったのでよく探鳥に利用していました。3月下旬のある日の様子を紹介しましょう。湖面にはホオジロガモ、ホシハジロなどのカモ類、岸近くにはオオバンやコブハクチョウ、カワアイサのつがい等が見られます。カムリカイツブリは例の有名な求愛行動をしきりに繰り返しています。ミミカイツブリはあのすばらしい黄金色の耳飾りをキラキラさせながら時折、喉の部分を広げています。これも求愛の仕草でしょうか。遠く葦原の上にはチュウヒが舞っています。私のすぐ横の木ではガサゴソと音をたててキバシリが樹皮の下のエサをあさっています。まだ冬羽を残したズアオアトリの姿も見えます。ふと見ると西の方から何かが数羽こちらへ向かって飛んできます。始めはカラスかなと思って何気なく見ていたのですが、だんだん近付いてくるのを見ると非常に大きな鳥の様です。ゆっくりとしたはばたきなのでガンカモではありません。翼が体に比べて非常に大きく、そして長く前につきだした首、そう、ツルです。クロヅルが7羽、低空飛行で、しかも例のツル独特のかん高い声で鳴き交わしながら私の真上を通過していきました。そして私は茫然とその遠ざかっていく姿を見送っていました。実は渡欧する直前、山口県の八代でナベヅルを見たのですが、思いがけない所で同じツルの声を聞いてその時のことが鮮明に思い出され、急に日本がなつかしくなったのでした。

我が家のヒヨドリ

桜井九郎（浦和市）

朝の冷え込みが厳しくなると、ますます寝床を離れがたくなる。

仁部富之助氏がその著『野の鳥の生態(2)』の中で、「早寝早起き、と早朝からきげんよく立ちまわるのは小鳥たちの共通性で、とくに団体生活者の朝の活動は活発である。ところがニューナイスズメは早寝の点は他の鳥なみに早いが決して早起きではなく、また朝のごきげんも甚だよくない。（中略）しかも、秋が深まり朝の寒さが身にしみるところになる



と、さらに一層無精者になってしまう』と報告している。この季節、我が身に照らしてニュウナイスズメが愛らしく、より親近感をおぼえてならない。ぜひ朝の不きげんぶりを観察してみたいものと思っている。

ところで、この冬我が家の玄関わきに植えたナリヒラダケを罫にしている1羽のヒヨドリがいる。このヒヨドリ君の早寝早起きぶりを紹介しよう。

月日	天候	日出時刻	日没時刻	就罫時刻	離罫時刻
12.22	晴	6:47	16:32	—	6:23
12.23	晴	6:47	16:32	16:05	6:19
12.24	晴	6:48	16:33	16:09	—

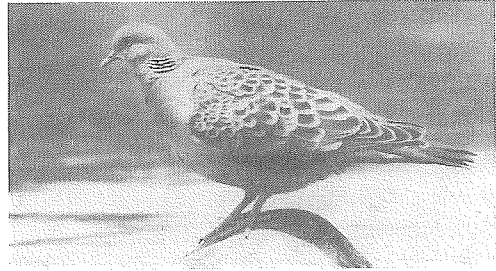
<就罫>

- 1) 3時半すぎに2羽で飛来し、近くの木を数回枝移りをしながら盛んにピーヨ、ピーヨと騒がしく鳴き合う。
- 2) 間もなく1羽が近くの罫に飛び去ると、静寂にもどり、羽づくろいに余念がない。
- 3) 4時すぎ、寝化粧も終り安全が確かめられると音もなく一瞬の間に罫入し、以後、罫では全く身じろぎもしない。
- 4) この頃、アオジはまだツッ、ツッと鳴きながら地上で餌をあさっている時刻なのに、日没30分も前に、なぜこんなに早く罫につくのだろうか。

<離罫>

- 1) 朝もまた非常に早く、6時20分ごろ何の前ぶれもなくピーツとさわやかな囀りで突然飛び去って行く。
- 2) 続いて近くでもピーッ、ピーッと一声二声鳴き合う声が聞えてくる。仲間と朝の挨拶をかわしているようだ。

郊外の道端では、4時20分ごろ罫入り直前の行動が観察されるので、就罫時の行動は土地の状況、季節などによって必ずしも一様ではないことと思うが、落日前に罫入りし、日の出前に離罫する小鳥たちの中でもヒヨドリはとくに早寝、早起きの部類に入る鳥ではないだろうか。



部分白化に関する私的考察

三田長久 (狭山市)

最近とんでもないことに気付いてしまいました。今年の1月号の野鳥情報にタシギの部分白化についての私の報告が掲載されました。狭山市の入間川、広瀬橋上流で左右次列風切り数枚が真っ白な個体1羽を88年11月20日、90年4月29日、5月3日、10月13日に観察したという情報ですが、これが「同一個体と思われる」と書いてしまったのです。鳥の羽は抜けかわるものだと失念しておりました。

私はいつもひたいの同じ部分に白毛が生えるのですが、ヒトの観察結果をもって鳥の部分白化が換羽後も維持されるとは言い切れないようです。今後さらに観察を続けようとは思っていますが、どなたかご存じのかたがいらっしゃいましたらお教え下さい。

カワセミ賛歌 (船方さんよの節で)

町田好一郎 (本庄市)

- 1) おーいカワセミさんよ カワセミさんよ
俺の呼ぶ声聞こえぬか
五百のレンズが見えないか
チッチッチーと鳴いてよー
飛んでおくれよこの枝に この枝に
- 2) おーいカワセミさんよ カワセミさんよ
フジか コニカか コダックか
お前はどちらの廻し者
チッチッチーと鳴くたび
俺のモードがうなるんだ うなるんだ
- 3) おーいカワセミさんよ カワセミさんよ
朝飯 昼飯 ウーロン茶
ちびたリュックに詰め込んで お前捜して
今日も歩くぜ利根川を 利根川を

野鳥情報

ハジロカイツブリ ◇2月23日、浦和市秋ヶ瀬の荒川、羽根倉橋付近で1羽(駒崎政雄)。
カワウ ◇3月2日、幸手市上吉羽の中川上空を300羽以上が五霞村方面より杉戸町方面へ飛んで行く(秋間利夫)。◇3月30日桶川市川田谷の南方向から西北へ150羽以上の群れが、2回にわかれて飛ぶ(立岩恒久)。
ヨシガモ ◇2月24日、戸田市道満で♂♀各1羽(駒崎政雄)。◇3月7日志木市の新河岸川で♂♀各1羽(二村英克)。
オカヨシガモ ◇2月6日、戸田市道満で30羽(駒崎政雄)。◇志木市の柳瀬川、栄橋～高橋間で♂♀各1羽(二村英克)。
アカハジロ ◇3月13日、志木市の柳瀬川で♀1羽(中村 治)。◇3月20日、戸田市道満貯水池で♂1羽。正面から見ると、まるでマガモのように頭部の緑色と胸の赤茶色が見事であった(高橋達也)。
スズガモ ◇2月19日、志木市の柳瀬川で♀1羽(中村 治)。
ミコアイサ ◇1月15日、戸田市道満で2羽(二村英克)。◇2月24日、同所で♂1羽、♀5羽(駒崎政雄)。
カワアイサ ◇3月13日、本庄市の阪東大橋下流で♂4羽、♀8羽。ディスプレイを始めたので、すぐビデオを回し始めたが「交尾」直前にバッテリー切れ! そんなもんです世の中は……(町田好一郎)。
オジロワシ ◇2月6日、浦和市秋ヶ瀬の取水堰と羽根倉橋の間の荒川岸を探鳥中、東の方から飛んできた。そして荒川上空を帆翔して、西へ飛び去った(駒崎政雄)。
コチドリ ◇3月2日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。◇3月17日志木市の柳瀬川、栄橋～高橋間で1羽(二村英克)。◇3月26日、浦和市の鴨川排水機場の干潟で3羽(渡辺喜八郎)。
イカルチドリ ◇2月25日、幸手市上吉羽の中川で3羽(秋間利夫)。
シロチドリ ◇2月13日、戸田市道満貯水池

の干潟で9羽(高橋達也)。◇3月2日、幸手市上吉羽の中川で3羽(秋間利夫)。
タゲリ ◇3月14日、本庄市の阪東大橋下流で16羽。見事な隊列でフワリ、フワリ。そろそろお帰りかな(町田好一郎)。◇3月30日、桶川市川田谷で1羽。翌日には、見当らなかったのでは終認と思われる(立岩恒久)。
オジロトウネン ◇3月26日、浦和市の鴨川排水機場の干潟で1羽(渡辺喜八郎)。
ホウロクシギ ◇3月26日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。
アカエリヒレアシシギ ◇3月22日、深谷市の上武大橋下流で冬羽1羽(井上幹男)。
セグロカモメ ◇2月16日、志木市の柳瀬川栄橋上流で1羽(二村英克)。
ウミネコ ◇1月26日、志木市の柳瀬川、高橋下流で1羽(二村英克)。
コミミズク ◇2月6日、戸田市道満で1羽カラス55羽にモビングされていた(駒崎政雄)。◇3月22日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。
カワセミ ◇2月19日、志木市の柳瀬川で1羽(中村 治)。◇3月13日、幸手市権現堂で2羽(秋間利夫)。
アリスイ ◇3月10日、戸田市道満の釣り堀西側の林で2羽。割りと低い枝に止まっていた(二村英克)。
コゲラ ◇2月27日、戸田市道満金魚釣り場付近で1羽。当地では、1989年7月18日以来2度目の観察(高橋達也)。
ツバメ(初認) ◇3月6日、秩父市の羊山公園で1羽(山口輝雄)。◇3月7日、志木市役所付近で2羽(二村英克)。◇3月12日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(町田好一郎)。◇3月15日、上福岡市上福岡で1羽(中村 治)。◇3月16日、狭山市の間川、広瀬橋付近で10羽以上(三田長久)。◇3月22日、深谷市の上武大橋下流で3羽(井上幹男)。◇3月30日、桶川市川田谷で2羽(立岩恒久)。◇3月30日、戸田市の戸田公園で1羽(高橋達也)。◇3月30日、浦和市道場で1羽(藤原真理)。◇4月2日、春日部市新袋で1羽(齊藤道也)。

◇4月3日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。

イワツバメ(初認) ◇3月16日、志木市の新河岸川、栄橋～赤橋間で10羽(二村英克)。

◇3月16日、狭山市の入間川、新富士見橋付近で5羽(三田長久)。◇3月19日、朝霞市浜崎の黒目川で1羽(田中富男)。

◇3月29日戸田市の戸田公園駅ガード下で2羽(高橋達也)。

キレンジャク ◇3月6日、新座市の平林寺でヒレンジャク群れ中に2羽。若い僧がマキを割っていたので、その音に驚いてすぐ逃げてしまった(二村英克)。◇4月5日日高町の福寿庵で9羽(吉川國雄)。

ヒレンジャク ◇3月5日、毛呂山町の自宅付近で8羽(前田真由美)。◇4月5日、日高町の福寿庵で37羽(吉川國雄)。

カヤクグリ ◇3月14日、長瀨町の宝登山で2羽(伊藤幸子)。

イソヒヨドリ ◇3月5日、志木市の新河岸川、赤橋付近で♀1羽(二村英克)。

トラツグミ ◇3月11日、大宮市日進町1丁目目で1羽(森本國夫)。

キクイタダキ ◇2月27日、大宮市日進町1丁目目で1羽(森本國夫)。◇3月6日、新座市の平林寺で2羽(二村英克)。◇3月19日、寄居町の鐘撞堂山でカラ混群中に1羽(高橋達也)。

ウグイス(初鳴き) ◇3月14日午前7時30分、本庄市の阪東大橋下流で、かなり上手に鳴く(町田好一郎)。

ホオアカ ◇3月2日、桶川市川田谷の田んぼで2羽。カシラダカと一緒に草の実をついばんでいた(立岩恒久)。◇3月5日、



朝霞市の黒目川、岡橋下流の土堤の中ほどで1羽(二村英克)。

ミヤマホオジロ ◇3月14日、長瀨町の宝登山で♂♀各1羽(伊藤幸子)。

オオジュリン ◇3月2日、幸手市上吉羽の中川で20羽以上(秋間利夫)。◇3月3日桶川市川田谷のアシ原で2羽。「ツリーン」と鳴いていた(立岩恒久)。

カワラヒワ ◇3月16日、桶川市若宮の自宅ベランダ下のクスノキの枝に巣材を運ぶ。その後、巣を完成させ、3月25日現在、営巢中(立岩恒久)。

マヒワ ◇2月21日、長瀨町の宝登山で約50羽。3月14日、同所で約200羽(伊藤幸子)。◇3月21日、坂戸市城山で30数羽(増尾隆・節子)。

ベニマシコ ◇3月14日、長瀨町の宝登山で♂1羽、♀2羽(伊藤幸子)。◇3月19日寄居町の鐘撞堂山で♂♀各1羽。♂はもう夏羽になっており鮮やかな色だった(高橋達也)。◇3月22日、深谷市の上武大橋下流で♀2羽(井上幹男)。

イカル ◇3月2日午前7時30分、桶川市若宮の自宅近くのケヤキの木のとっぺんで1羽。その下では、ウグイスがさえずっていた(立岩恒久)。◇3月10日、所沢市小手指町で1羽(中村 治)。

ハシボソガラス ◇3月12日、幸手市上吉羽で営巢中(秋間利夫)。

表紙の写真

コムクドリ(ムクドリ科)

秩父市内の民家の庭先で、夫婦で一生懸命に餌を運び、子育ての真っ最中だった。

巣から離れたポイントを選び、そこにとまる姿を写そうと、物かげに身をひそめ、蚊にさされている私のことなんか、まるっきり知

1990ネイチャーフォトコンテスト入選作

らん顔。気にされれば、すぐ撮影断念。だが、全く無視されるのも、ちょっとしゃくにさわる。ピシャ、ポリポリ……カユイよお、なんて、結構ジタバタやっていたのに。

今年は、忘れずに、蚊取り線香持っていた。

海老原美夫(浦和市)

行事あんない



本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：5月5日（日）

集合：午前9時 JR高崎線本庄駅北口（集合後、現地までバス利用）

交通：高崎線大宮7:42→本庄8:49

担当：町田好一郎、林滋、小淵健二、諏訪隆久

見どころ：ふるさとへ帰ってきたツバメチドリ、利根川が気に入ったらしい残留組のカモ君等々、いろいろ揃っています。風のそよぎとカッコウの声をBGMに、どうぞ、ごゆっくり。

千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：5月6日（月・振休）

集合：午前10時 JR京葉線南船橋駅前

交通：武蔵野線北朝霞8:56 南浦和9:06

担当：杉本秀樹、登坂久雄、中村治

見どころ：シギ・チドリの赤い夏羽で、干潟が華やぐ季節です。むずかしい識別はさておき、まずは、その美しさを充分にお楽しみ下さい。

栃木県・箒川探鳥会

期日：5月11日（土）

集合：午前7時 大宮駅中央改札口

解散：午後3時頃、現地にて

担当：中島康夫

見どころ：ちょっと拝見、チョウゲンボウ・ファミリーの生活。箒川の営巣地で、子育てに奮闘する姿を観察したあとは、クロツグミやアカモズを探しに、千本

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日です。参加費は一般100円、会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、午後1時ごろになります。

◇フィールドマナー、いつも忘れないで◇

- ・鳥に近づきすぎたり、植物を採ったり荒らしたりしないように。細く長いおつきあいを。
- ・ゴミは、家まで持ち帰りましょう。

松牧場を訪ねます。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月12日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:00 発または寄居8:52 発に乗車

担当：諏訪隆久、林滋、町田好一郎、逸見嶮、諏訪夕香子、田口浩司、宮坂亨

見どころ：荒川の中流にも、渡りのシギ。はるかなるシベリアへの長旅の途中、ここでちょっと一休み。鳥たちの小さな国際空港・大麻生で、あなたもちょっと一休み。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：5月12日（日）

集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー（集合後・現地までバス）

担当：福井恒人、草間和子、小林みどり、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子、藤原寛治

見どころ：浦和のシンボル“白鷺”大研究。シラサギ、といっても、いろいろいます。この季節の秋ヶ瀬で見られるのは、3種類。バードウィークの一日、郷土の鳥について、勉強してみませんか。

川越市・西川越探鳥会

期日：5月12日（日）

集合：午前9時 JR川越線西川越駅前

担当：乗田実、長谷部謙二、松井昭吾、石井

幸男、三田長久、佐久間博文、吉田喜代実

見どころ：色あざやかなキジ、カワセミは、一目見たら忘れられない。こんな美しい鳥が身近な川原にいたなんて、ちょっとしたタカラモノを発見した気分。

北本市・石戸宿探鳥会

期日：5月12日（日）

集合：午前9時20分 北本観察公園駐車場

交通：高崎線北本駅西口アイメガネ前8:50
発北里メディカルセンター行きバスに
乗車

担当：岡安征也、榎本秀和、森本國夫、関口善孝、内藤義雄、立岩恒久

見どころ：夏鳥に会いたい。繁殖地の山へ向かう小鳥たちの姿が見られるかもしれません。期待とあこがれを胸に、若葉萌え立つ石戸宿の森にお集まり下さい。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：5月19日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：青葉繁れる斜面林にカッコウの声。川辺には、にぎやかなオオヨシキリに、仲睦まじいカルガモのカップル。目にも耳にも楽しい、三室の初夏。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月1日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局

案内：今度の休日、どこへ行こうか、どの鳥見ようか？ 迷ったら、袋づめの会へ。集まった鳥仲間から、耳よりの情報がキャッチできるかも。あっ、お仕事のほうも、お忘れなく！

野鳥写真クラブ定例会

とき：6月1日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：ゴールデンウィークに出会った、あの鳥、この鳥。思い出をスクリーンの上にプレイバック。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：5月26日（日）

集合：午前7時20分 丸山公園北駐車場

交通：高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から
西上尾車庫行き7:03発に乗車、終点下車

解散：午前9時ごろ

担当：乗田実、赤瀬征雄、立岩恒久、河辺達朗

見どころ：早朝の公園は野鳥天国。静けさの中、聞こえてくるのは、鳥の歌ばかり。ホオジロ、カッコウ、ヒバリ、そして、ひよっとしたら・・・なんだか素敵な朝になりそう。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

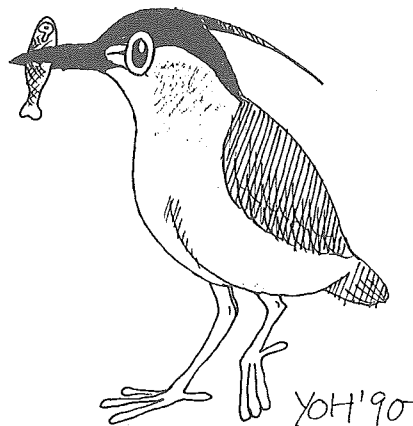
期日：5月25日（土）～5月26日（日）

ただいま、参加者を募集中です。詳細は、先月号をご覧ください。

栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：6月1日（土）～6月2日（日）

定員に達しましたので、締め切りました。ご応募ありがとうございました。参加される方には、詳しい案内書を送付いたします。



行事報告

2月24日(日) 本庄市 阪東大橋

人 42人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ カワアイサ トビ ノスリ イカルチドリ シロチドリ タゲリ ハマシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (35種) 前日の関東ブロック会議に出席された方々も参加し、にぎやかな探鳥会となった。この冬一番の寒気の影響で、朝方穏やかだった風も昼頃にはあの「赤城おろし」。あそこにヨシガモ、こちにカワアイサ、上にはノスリなどさすがに阪東大橋と思ったが、砂利採取工事のため種類数はいまひとつ。でも、慣れない所のリーダーってやっぱりむずかしい。

(伊藤芳晴)

3月2日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 10人

作品発表した人 ビデオ1人 スライド3人



シメ (佐藤晶人・与野市)

3月2日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、角田真喜子、河辺達朗、楠見文子、佐久間博文、佐藤晶人、中村治、藤野富代 (10人)

3月9日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

人 9人 天気 曇 鳥 カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ スズガモ バンシロチドリ ダイセン トウネン ハマシギ イソシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ ユリカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (34種) カモ類はよく見られたが、10時頃が満潮でシギ・チドリが少なかった。干潟の東側からニシトウネンを探したが見つからず、残念。お詫びにと、終了後に全員で新習志野の海を見に行った。カイツブリ類、カモ類、チュウヒが出た。アカエリカイツブリは初めての人もあって喜んでもらった。

(杉本秀樹)

3月10日(日) 熊谷市 大麻生

人 54人 天気 快晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ イカルチドリ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシボトガラス (31種) 明戸堰まで、ゴルフ場にそって歩いた。第一印象は、やはり鳥が少ない感じ。しかし、ゴルフ場のまわりではオオイヌノフグリとヒバリのさえ

ずりが僕たちに春の訪れを教えてくれた。一方水辺では、セグロセキレイがさえずって、暖くなった水面に、多くのカモが翼を休めて、ひなたぼっこをしていた。(諏訪隆久)

3月10日(日) 狭山市 入間川

人 33人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ミコアイサ トビ コジュケイ コチドリ イカルチドリ ハマシギ イソシギ ユリカモメ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス(38種) カワセミ、ヒメアマツバメは、ちらっと姿を見せただけで残念だったけれど、ミコアイサ(♀2羽)をみんなでゆっくり観察。稲荷山公園のアカマツの下では、ビンズイがみんなと一緒に昼ごはん。のどかな春の一日でした。(長谷部謙二)

3月17日(日) 浦和市 三室地区

人 55人 天気 快晴 鳥 カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ トビ ハマシギ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ オオジュリン アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス(38種) 予告どおりツバメも、イワツバメも、三室の里に帰ってきました。モモやウメの花が一杯咲いて、三室の里は春一面でした。春と言えば、この探鳥会に小学校の4年生から参加したI君が高校に入学して再登場、皆の拍手を浴びました。オオタカとトビが青空の中を飛びましたが、不思議なことに、トビは三室では初出現でした。今日は“鳥帰る”前の素晴らしい探鳥会でした。(楠見邦博)

3月21日(日) 秩父市 羊山公園

人 47人 天気 曇 鳥 トビ ハイタカ キジバト アオゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヒレンジャク ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ マヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(34種) お目当てのウソはタツプリ見られました。アカウソもいました。アトリやマヒワの群れも。ヒレンジャクまで。鳥合わせしていればリスがチョコロチョコ出てくるし、昨年は風が強くてさんざんだったけれど、今年は逆転満塁ホームラン。寝坊して参加できなかった人がかわいそう。アカウソのおなかのほんのりとした赤さは、実にいいですな。

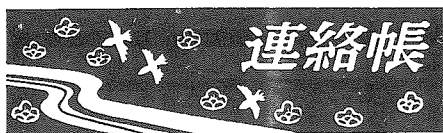
(海老原美夫)

3月24日(日) 坂戸市 高麗川

人 33人 天気 晴後曇 鳥 カイツブリ コサギ マガモ カルガモ コガモ トビ オオタカ コジュケイ キジ バン コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(36種) 探鳥会のたびに様子が変わっている高麗川。今回も数箇所河川工事中。そんななかで最初に出迎えてくれたのは、バンにカワセミ。途中、イカルチドリやオオタカをじっくり観察。しかし、ヤマセミは今回も姿を見せず参加者の気分も晴のち曇。下見のときは出てくれたのだが。(長谷部謙二)

3月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 荒木恒夫、岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、遠藤薫、角田真喜子、神場真文、墨江光子、中村治、成田文枝、藤野富代、前田多喜子(12人)



ついにカスミ網販売禁止実現!!

うれしいニュースが、新聞・テレビなどで知らされました。カスミ網の捕獲目的での所持禁止、一般販売禁止と、違反した場合の罰則規定を盛りこんだ鳥獣保護法改正案が、4月12日の閣議で正式決定したあと国会に提出、今秋から施行される見込とのこと。この原稿を書いているのがその12日。お手もとに届くころには、成立しているでしょう。

署名運動にご協力くださった多くの会員の皆さん、本当にありがとうございました。

秩父リゾート開発に慎重姿勢

4月3日付埼玉新聞によれば、畑和県知事は、2日の定例記者会見で、自然破壊が全国的に問題とされているリゾート開発について、「なかなか難しい。秩父リゾート地域整備構想は気をつけてやらなければいけない。(批判が出ていた長尾根のスカイロードは)真夏は暑いと思う。自然保護団体に指摘され、なるほどそうだと思った。幅を広げる計画はやめ、側道部分に樹木を植えることにした。(同構想の)大企業は西武鉄道だが、秩父リゾートは派手にならないように気をつけていかなければ」と、慎重に対応する考えを示したとのこと。秩父リゾート構想に反対している秩父愛鳥会(宮崎章次会長)を中心とした活動の、ひとつの成果です。

バードウィーク展開催

秩父愛鳥会と共催で、「秩父・熊谷 鳥とけものたち」展を開催します。
日時：5月11日(土)～19日(日)
(最終日午後5時まで)
場所：熊谷駅ビル アズ熊谷 4階
内容：大麻生定例探鳥会で観察される野鳥と、秩父のけものたちの写真を展示し、秩

父リゾートと、ゴルフ場の問題について考える。

11日(土)午前中に展示作業、19日(日)午後5時すぎに撤去作業。お手伝いくださる方、どなたでもお集まりください。

5月の土曜日当番(2時～6時)

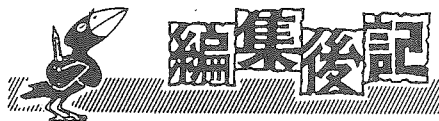
- 5月4日 事務局休み
- 5月11日 杉本秀樹 角田真喜子
- 5月18日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 5月25日 福井恒人 小林恒雄
- 6月1日 袋づめの会(1時から)

会員数は

4月1日現在 1,593人です。

活動報告

- 2月2日 普及部会議。
- 2月9～10日 評議員会(鈴木支部長・松井評議員・海老原理事・小林幹事)。
- 2月16日 編集部会議。
- 2月17日 普及部会議、役員会議(司会：登坂久雄、渡良瀬遊水池開発反対運動など)。
- 2月27日 リサイクルカーニバル打ち合わせ。
- 3月16日 編集部会議、研究部会議。
- 3月17日 役員会議(司会：福井恒人、バードウィーク展など)。
- 3月24日 北本探鳥会取材(タウン誌 YOU)。



花粉症に悩まされています。鼻をかむたびに、貴重な森林資源をハナ水びたしにしているようで、何となく気がひけます。かといって、グチャグチャになったティッシュは、あんまりリサイクルしたくないし…昔の人は、かわかして、また使ったそうですけど…自然を愛する花粉症の皆さんは、どうしていますか。何かいい方法があったら教えてください。キタナイ話でごめんなさい。(小林みどり)

『しらこぼと』1991年5月号(第84号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町 107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断りします)